

4月になりました。

外は雨 桜の開花宣言から寒が戻り、まだ3分咲きという所でしょうか？

先日まだ桜のつぼみが固く閉じている頃にミニ同窓会がありました。

時期的には全く花見ではなかったのですが、日当たりの良い所の桜が1本2分咲き。

アメリカから一時帰国した友人は「日本の桜」を写真に収めて戻ることができました。

メール、ライン、フェイスブックの登場により、「同級生」とのコンタクトがとても容易取れる様になりました。故になんか飲み屋でおじさんおばさん達の集まる姿をみる機会が増えている様です。ちょっと前(いえ結構前)・・・同級生と合うなんて時間は皆無でした。気にもならなかった。

ましてや、3月は移動や転勤時期にも重なり特にありえない時期でした。

その3月に集まれちゃう所なんかが「定年間近」・・・という立場を再認識させます。



私は教師の友人知人も多くその多くが都内各地に3月の大移動していました。

その友人教師たちが示し合わせたように誰もかれもが言っていたことがあります。

それは移動が決まったらまず「その街を見に行く」と言う事

会社員の友人などが社内報、同期などのツテ等を駆使して、赴任先の人事や同僚の人間関係情報などを探った必死で探ったりするのは違って、

彼らは「学校そのものではなく、その街・そこに住む人々を観に行く」と言っていました。

その学校やその生徒児童、保護者家族をしっかりと見据える為には、漏れ聞く「校風」だけでなく、

実際に「子ども達が育つ街の環境」が重要なファクターである事を経験値として理解し、

それを知ることで、新たに接する子ども達の「個性」や「特徴」をより理解できるようになる。

学校という組織の中で例え微力でも、教育の向上に役立て様と思っている。だから観に行く。

出世を意識して、人事情報に奔走する^{やから}族は首をすくめ、

「うちの子どももそういう教師に出会えているといいな」と つぶやいたものです。

今、(私の小学生の頃は当たり前ですが)・・・私の子ども30歳半ばになりますが・・・

学校や学校を取り巻く環境は私たちの知る物と随分変化しています。もちろん子どもも

親の考え方も違うと思います。ですが、子どもに親として期待し望む事には実は

あまり大差ないのではと思います。

子どもたちはこれからの日本を背負っていく「未来の大人」です

未来の大人がしっかりと私たちを牽引してくれなければ、腰の曲がった我々は上手く

歩く事もできません。しっかりした未来の大人の為、せめて自分たちの街だけでも

「ここなら大丈夫」と新任教師が感じられる様「街の者として何か係わってみませんか？

4月21日ゆうゆう久我山館に杉並区立久我山小学校の校長が「まちが育てる学校」と言うテーマでお話ししていただける事になっています。

きっと貴方も何かできるはずです。子どもに良い街はきっと私たちにも良い所がいっぱいある

はずです。今の学校を少しでも知ることでまた学校に私たちを理解してもらう為にも

是非ぜひご来場くださいませ。私も末席でお話し聞きたいと思っています。

そんな事を思うかなり寒い4月の始まりです。